

参考資料2 『桜川』のいわきの関する句

【内藤義概（風虎・風鈴軒・風山）の句】

みちのくひさのはま
陸奥久乃浜と云所にて

久の浜の真砂の数や御代の春
風鈴軒

みちのく渡戸と云所にて

ぜんまいのはえ出は石のわたと哉
風鈴軒

みちのく綱取と云所にて

浦人の綱とりてひく地あみかな
風鈴軒

みちのく中寺と云所にて

中寺にかねつき鳥や後夜のこゑ
風虎

*鐘撞き鳥は鶏のこと。後夜は六時（晨朝、日中、日没、初夜、中夜、後夜）の一つ、午前二時頃〜午前六時頃。

みちのく走熊と云所にて

短夜の月にや雲もはしり熊
風虎

みちのく丹後沢と云所にて

所えて引や菖蒲もたんこ沢
風山

みちのく玉川にて

玉川やしほ風こしにさしあふき
風鈴軒

みちのく長友と云所にて

松虫や夜も長友にしのみ声
風鈴軒

奥州花園祭 前の日彼所にいたりて

あすよりや秋のはな園まつり客
風山

みちのく上土といふ所の医師のもとにて

あけ土にひく人参も薬種かな
風山

岩城の内 大越

雪と見る浪や大越うらの松
風鈴軒

【内藤義英（露沾）の句】

*義英は義概の子、松尾芭蕉などと交流があった。

みちのく岩城にて

人ならぬ岩城も春やかさり松

岩城住露沾

*人ではない岩や木も春を迎え、飾り松に岩城の栄を祝う。

みちのく中塩と云所にて

わたとりて中しほ入よ鮎のうを

岩城住露沾

【いわきの風物や地名などを詠んだ句】

みちのく岩城にて

岩城紙すきものゝわさや懸想文

塩川如白

みちのく白水と云所にて

白水や名になかれたるはるの雪

南師繕

みちのく鬼ヶ城と云所にて

茂る木やけに目に見えぬ鬼ヶ城

浅香研思

みちのく藤間浦にて

松のりやかゝる所のふちまうら

矢吹嘉品

*松海苔…浅い磯場の岩に生育。高さ約七センチ。食用にする。

みちのく一山寺と云寺へ花見にまかりし時

花に我こゝろの駒や一山寺

長坂守常

*一散…一目散、わき目もふらずに。

みちのく岩城桜馬場と云所にすみける人
みまかりければ

花の下に春死なんとや桜馬場

塩川如白

みちのく物見か岡と云所にて

駒とめて物見の岡やはなくさ

藤田清俊

みちのく平さくら町と云所にて

平なら花のみやこにさくら町

岡本不卜

みちのくさはこのみゆにて御湯

黒鴨さほこ・三函や沢子見のみゆるくさかくれ草 隠

水野林元

みちのく神谷かべやといふ所にて

草の戸鳴になくやかべや神谷・壁屋のきりきりすキリギリ

矢吹嘉品

みちのく照嶋いと云所にて

照しま島 照やてれるをついて月見酒

川路繁常

みちのく岩城はべにて月見侍曇にくもりければ

あの関借の名こそおし今日けれけふの月

中畑乍憚

*中畑乍憚は須賀川の俳人、相良等躬の俳号。

岩城の内かたよせ片寄いと云所にて

つむ雪積をかたよせてみちの掃除そ哉うじかな

松山玖也

陸奥わた鰐わにヶ淵いと云所にて

突鯨くしらのかれ通かたし難やわ鰐にが淵

穂鷹久明

【水掛祝・水祝儀・水掛け祭りを詠んだ句】

うらむ恨ともかけて掛こそみめ水祝いはひ

川路繁常

袖ひくを引も他生たしのえん縁か水祝みずい

安藤笑草

底意そこいなき中仲やこゝろ心の水祝いはひ

中村敬英

花はなむこ簪荒にあら掛くなかけそ水浴あみせ

矢吹嘉品

簪むこの袖濡や波衣のぬれ浴きぬ水あみせ

吉田聞也

相あいむこ簪もりに水ては摸稜おの手桶かな

加藤治尚

*相簪は姉妹を嫁に取った夫どうしのこと。摸稜は迷うこと。

水掛かけ端やはた清へき脂よら脂にあ墨ふら墨

穂鷹久明

*脂墨は松を焚いた煤から作った墨、松煙墨。

あ脂ふら墨すみ墨や顔ひまに隙ひまなく水浴あみせ

矢吹嘉広